

越嶺会報

令和7年(2025年)2月15日

第99号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax (076) 445-6419

郵便振替 00710-9-14562

メールアドレス etsurei@eco.u-toyama.ac.jp

越嶺会ホームページ

越嶺会http://www.etsurei@eco.u-toyama.ac.jp/

記念大会の様子が動画で見いただけます。 →
ホームページ → 行事報告 → 記念大会開催 をクリック。
記念大会の頁左下のYouTubeをクリックしてください。



富山大学経済学部(旧高岡高商) 創立100周年記念事業募金に ご支援ご協力いただき 誠にありがとうございます

いま一度募金の振込用紙を同封しますので、送金にご利用ください

目次

第1部

100周年記念大会報告	2
中尾記念大会長挨拶、伍嶋会長挨拶、 森口経済学部長挨拶 ほか	
記念ゴルフ大会	
小旅行(立山、岩瀬)	
丹羽ゼミOB会	
吉原ゼミOB会(写真)	
45年入学同期会	
学部31回同期会	

第2部

寄附者ご芳名

第3部

経済学部基金高額寄付御礼	20
母校だより(定年退職、新任)	20
支部・各回だより	23
関東、東海、福井 昭52卒吉原ゼミOB会 叙勲等おめでとうございます ヘルン文庫100周年感謝祭 受贈図書御礼と紹介	
同窓会連合会	28
ホームカミングデー(経済学部担当)	
体育会関係	29
OB会、球技大会、体育会総会	
会員の訃報	31
山口素光先生を悼む 梅本清一	

中尾哲雄記念大会長 開会あいさつ



富山大学経済学部に入學するや、角帽を被って、布団袋をかつぎ青冥寮に入居して教養課程の生活が始まった。いま、古い日記の埃を払うと四つとせの日々が鮮やかに蘇る。これは、「経済学部五十年史」に書いた私の文章です。終わりの部分をもう少し紹介します。

学部校舎の五福移転もこの頃であり、角帽は姿を消しはじめていた。コンパのときの歌も、寮歌から労働歌や流行歌に変わりつつあった。だが岩瀬の浜はみごとに黒松の樹林が白砂に和し、寮歌を高吟して逍遙する富大生の闊歩をむかえていた。いま夏草の茂る蓮町校舎跡に佇めば「幾春暮れて秋たけて、今は昔とな

りにけり」——と寮歌の調べが初秋の風にのって耳底によみがえってくる。青冥寮に結んだ若き日の夢は「ひねもす幸の歌」であったといえよう。

皆様、本日は経済学部百周年記念式典にご来場いただきありがとうございます。

顧みますと、大正十三年、一九二四年に設立された官立の高岡高等商業学校を起源といたしまして、戦後、学制改革により昭和二十四年、富山大学文理学部経済学科に継承され、昭和二十八年に経済学部となり今日に至っています。この節目の日に当たり、学部発展にご尽力くださいました関係各位、諸先輩、同窓諸君に感謝と御礼を申し上げるものであります。

さて、振り返ってみますと、学部百年の歩みは二〇世紀の歴史そのものであり、大きな変革の時でありました。その百年の間に我々は、それ以前の数千年以上の変化を経験しました。その間、我が国は近代国家の道を急ぎ、時に大きな戦争もありましたが、今日の繁栄を築いたのであります。

記念式典



十時の開会を前に、八時頃から実行委員の皆さんが集まりはじめた。幸い天気は上々。オーバードホールの前は、準備の労をねぎらい、この日を祝う歓談で賑わった。

ロビーには富山大学アーカイブ歴史資料館の協力で、経



済学部の歴史をまとめた図や絵が掛けられ、多くの会員、来賓の方々に見てもらえた。重原佐千子さん(学部五四回)の司会で、定刻十時、越嶺会会長の伍嶋二美男・百周年記念事業実行委員長が開会を宣言し式典が始まった。

二万六千有余名の同窓生はこの激しい変化の中に身を置き、さまざまな役割を果たしてまいりました。愚者は体験に学び、賢者は歴史に学ぶといいますが、一〇〇周年を迎えるにあたり、学部のみきた道、それを育んでくれた歴史・時代背景を顧みて、ここに一〇〇周年の会を催したのであります。我々は単に過去を懐かしみ回想するだけでなく、事実と真実を認識することにより、母校とは何か、伝統とは何かを考え、時代を超えて脈々と流れ受け継がれていく経済学部、越嶺会の精神と連帯を確認し合いたいと思います。

経済学部歌の一節であります、高志の野の光輝ふ空あこがれをそこに見ずやわれら翳りさす人生に、清新の光を呼び 誠ある 社会のため。熱き心 敢えて尽くさん。

学研と青春讃歌の道場、富山大学経済学部の永遠の発展を祈ってご挨拶いたします。ありがとうございます。

伍嶋二美男越嶺会会長挨拶 「さらなる高嶺を越えて」



富山大学経済学部は、大正十三年に開設された高岡高等商業学校を経て、昭和二十八年に設置された社会科学系総合学部であり、本年に創立一〇〇周年という大きな節目を迎えることができました。

これまで、富山大学事務局をはじめとして各企業や地方自治体、関係団体の皆様には、この越嶺会の諸活動に對しまして深いご理解とご支援を賜っており、ことに厚く御礼申し上げます。

経済学部の同窓会である越嶺会は、こうした長い歴史と熱心に導いていただいた教員の皆様、そして企業経営者などの関係者に支えられ、現在延べ約二万六千名の会員を有しています。これらの同志たる会員は、国内外の企業や

亡くなられた恩師学友に黙祷を捧げ、中尾哲雄記念大会長が開会挨拶をおこなった。文部科学省、新田八朗富山県知事、斎藤滋富山大学長から祝辞をいただいた。来賓紹介、祝電を披露し、式典は終了。

第二部は、パネルディスカッション。

中尾さんをコーディネーターに、学部十八回の宮地秀明



さん、二十回の寺林敏さん、二五回の成田順一さん、三十回の伍嶋さんがパネリストを務め、「私の歩みきた道、そして、未来へ」と題して約1時間、学生時代、社会人になつてからの思い出、後輩へのメッセージを述べてもらった。

第三部は、富山大学吹奏楽団の記念演奏があった。富山県では二〇数年優勝を続け、全国大会に出場している。

コンクールで演奏予定の二曲に加え、楽団指導の建部智弘先生作曲の「ギャツチ・ザ・サンシャイン」が演奏さ



地域経済の担い手として幅広く活躍されており、それぞれの目標や夢に向かって着実に歩を進めておられることを誇りに思います。

また、記念式典という百年に一度のめぐり逢いの中で、記念大会長である中尾最高顧問をはじめ数多くの先輩そして同期・後輩に囲まれて幾重の議論を交わして式典開催を、実現できましたことについて、本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

近年の国内では少子高齢化が加速し、人材の養成や確保が大きな課題となる中、人工知能（AI）などの先端技術の進展、働き方改革、世界的な課題である地球温暖化に対応した事業戦略の見直しが求められるなど、社会経済環境が激変してきております。

こうした大きなうねりの中では、しっかりと未来を切り開いていく人材を育てていくことが必要であり、越嶺会としても、さらなる高嶺を越える気概を持って新たな価値創造を行いチャレンジする人材育成をテーマに据えて、その環境づくりに取り組んでまい

りたいと考えております。本日の記念大会が、それぞれの皆さんの思いで母校を振り返り、越嶺会が世代を越えた語らいの場として、皆さんの心根に宿る機会となることを祈念しております。

本日参加いただきました多数の来賓の皆さま、会員の皆様に深く感謝いたしますとともに、今後ますますのご健勝、ご活躍をお祈りいたします。本当にありがとうございます。



れた。一六〇名の楽団員から選抜された五四名での演奏は、迫力は圧巻で、音響に定評のある大ホールいっぱい響き聴衆の会員には記念大会の良思い出になった。



最後に、副会長の桑原幹也さんが閉会の挨拶を述べて式典はお開きとなり、隣接のカナルパークホテルでの祝賀会に移動してもらった。

午後一時一〇分、経済学部歌を合唱し祝賀会を開会した。



森口毅彦・経済学部長ご挨拶



創立一〇〇周年記念大会の開催にあたりまして、経済学部を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日は、経済学部にも縁のある多くのご来賓の方々ならびに全国各地からご参集いただいた越嶺会の会員の皆様のご臨席のもと、このような盛大な会を開催できますこと、誠に喜ばしく存じます。また、大変お忙しい中、本大会の準備に労を惜しまず取り組んでいただいた越嶺会の記念事業実行委員会の皆様には心より感謝申し上げます。

さて、富山大学経済学部は大正十三年に設置された官立高岡高等商業学校を前身とし、本年九月に創立百周年を迎えました。これまで一〇〇年にわたって、この富山の地で教育・研究の中核的な基盤として社会に貢献して参りました

が、これも偏に関係各位からのご支援があったからに他ならないものと大変感謝いたしております。

この一〇〇年の間に卒業生は二万六千人余りを数え、それぞれが地域社会、そして全国各地で活躍されております。そうした皆さんのご活躍を祝福するとともに、そのご活躍によって経済学部の名声と信望を高めてくださっており、ますます心から感謝を申し上げます。

経済学部の一〇〇年にわたる軌跡を振り返ってみますと、高岡高等商業学校として歩みを始めた後、昭和二十四年に新制富山大学文理学部経済学科として生まれ変わり、その四年後に経済学部の設置が認められ、その後、経営短期大学部の併設、経営学科そして経営法学科の設置、昼夜開講制の導入と経営短大の廃止、大学院経済学研究科の設置と、幾多の変遷を遂げてきております。しかしながら、その根底では、一貫して実践的な課題解決力をもった職業人の育成ならびに社会課題の解決に

伍嶋会長、森口毅彦経済学部長が挨拶を述べ、藤井富山市長から祝辞をいただいた。飯塚修・関東越嶺会長の発声で乾杯し開宴した。司会は、重原佐千子さんに加え、藤沢さなえさん（学部五三回）と弟のゆういちさんで臨機応変にぎやかに進めてもらった。なお、彼らは姉弟お笑いコンビ雷鳥として活躍中である。



右 重原佐千子さん
中 ゆういちさん
左 (見えづらいが) さなえさん
下のリボン演技もさなえさん

合間には、吹奏楽団のアンサンブル演奏や八尾のおわらの歌と踊りも披露された。

頃合いをみて「ふるさと」を会場いっぱい合唱し、最後は、森浩一石川支部長の発声で万歳を三唱し、募金部長を務めた宮村樹・副会長が挨拶をして、めでたくお開きとなった。

なお、式典の यूチューブの中継は、ジエック経営コンサルタント社に、式典・祝賀会でのスナップ撮影は、



資する知の創造を目指した研究への取り組みを行ってきたおり、そのために時々の社会の人材ニーズや課題解決の必要に合わせて、変化を厭わず対応してきた姿ではないかと思っています。

一〇〇周年を迎える今日、社会環境が激変する時代となっており、急速なグローバル化、気候変動やカーボンニュートラルへの対応、AIの劇的な進展など、対応しなければならぬ課題はかつてないほど多様化・複雑化しております。そうした課題解決のために文理融合が求められる中で、社会科学の知の提供を通じて、領域横断的な総合知の創造に寄与する経済学部役割に対する期待はますます高まっています。

こうした社会からの新たなニーズに対応し、これからも有為な人材を輩出し続けるために、この四月に経済学部は改組を行っております。これまでの経済、経営、経営法学科という三つの学科を「経済経営学科」という一つの学科にまとめることで真に分野横

断的な学びを実現し、そこにデータサイエンスの素養を身に付けさせる教育を行うことで、今日の多様化、複雑化した課題に対して幅広い視点からエビデンスベースでアプローチできる実践的な解決力を身に付けた人材の育成を行う体制を整えました。

そうした中で、越嶺会では、創立百周年記念事業として、これからの時代を担う人材の育成に重きをおいた支援事業を企画していただいていることは大変喜ばしいことでございます。様々な地域課題やビジネス課題に対応する実践的な能力は、大学内だけの学びにとどまらず、地域社会の中で育て上げていくことが必要ではないかと思っています。実社会の中で活躍されている越嶺会会員の方々から「寄附講義」やインターンシップ等を通じて実践的な学びを受けることは、学生たちにとって大変貴重な経験になるはずです。そして、そこで学びを受けた学生たちが、卒業後には今度は自らが越嶺会会員として後輩たちの指導にあたっていくという人材育成の循環ができれば

釜谷春雄さん(学部二一回)や写真サークル富山大学Photo-meに依頼した。





ばとても素晴らしいことでは
 いでしょうか。
 経済学部は、これまで築き
 上げてきた百年にわたる輝か
 しい歴史と伝統をしっかりと
 胸に刻み、次の一〇〇年へ向
 けての歩みを始めました。
 今後とも有為な人材の輩出
 と研究成果の還元を通じて社
 会へ貢献して参る所存でおり
 ます。そのために、決して
 挑戦することを恐れず、さら
 なる発展へ向けて積極的な取
 り組みをしていきたいと考え
 ております。引き続き皆様か
 らのお力添えを賜ることがで
 きましたら幸いです。今後と
 も何とぞよろしくお願い申し
 上げます。





一〇〇周年記念行事

記念ゴルフ大会

創立一〇〇周年記念式典・祝賀会の翌日となる十月十四日(月・祝)、記念事業の一環となる「記念ゴルフコンペ」を、県内外から五五名が



参加して、太閤山カントリークラブ(富山県射水市平野一番地)にて開催しました。今回初参加となる会員も多くエントリリーいただき、スポーツの日らしい晴天の下、爽やかな秋風を感じながら、親睦を図ると共にプレーを愉しみました。

ホールアウト後の表彰式では、創立一〇〇周年記念事業実行委員会副委員長兼事業部会 副部会長の土屋誠さん(三四回生/越嶺会副会長・越嶺会グリーン会会長)が開

会の挨拶を行い、続いて記念大会長の中尾哲雄さん(八回生/越嶺会最高顧問)から前日の記念式典・祝賀会開催の報告等挨拶をいただきました。その後、同実行委員会副委員長兼事業部会長の桑原幹也さん(三〇回生/越嶺会副会長)の発声で、記念ゴルフコンペの開催を祝して、参加者一同で乾杯を行いました。

結果は、木村昌幸さん(三一回)が優勝された。今コンペでは、越嶺会最高顧問の中尾哲雄さんから第八位、会長の伍嶋二美男さんからは第三位、副会長の土屋誠さんか

らは第三四位を、それぞれの卒業回に因んで賞品協賛いただきました。改めて深く感謝申し上げます。

来年は越嶺会グリーン会ゴルフコンペとして、十月中の土日・祝日に、同クラブにて開催予定です。初参加の方も勿論大歓迎です。初参加の方も多くご参加いただき、盛會に開催いたしたいと思っておりますので、何卒よろしく願っています。

参加者

八回	中尾哲雄
十六回	針山健二
十八回	富田大三郎
二〇回	江藤雅雄、大橋正幸
二一回	小野 崇、寺林 敏
二一回	戸倉謙治、福岡克美
二一回	江藤隆典、小竹茂樹
二二回	橋本洋二、室伏 渉
二二回	杉森 聡、水流航健
二二回	榎 春夫、
二六回	三箇周治
二八回	河井重夫、嶋崎 貢
二九回	鶴瀬初弘、古川 均
三〇回	水上裕司
三〇回	青山哲哉、大野公久
三〇回	桑原幹也、関口清富
三一回	中田和夫
三一回	木村昌幸

三二回	森 浩一	
三三回	中本秀史	
三四回	土屋 誠	丸杉 輝
三五回	森山真人	山田 勉
三六回	古里博人	
三七回	杉本正人	
三八回	島田公志	福田憲夫
三九回	江島教英	二口 洋
四〇回	越野 豊	
四一回	新川兼史	茶谷哲也
四二回	金瀬正志	本田泰郎
四三回	森本 暁	
四四回	柴田正明	
四七回	石橋哲也	
五一回	竹鼻晋平	茶谷尚光
五四回	花岡秀樹	
短大	松原隆光	
十七回	木瀬博文	辻井益雄
院九回	福井幸博	
(金瀬正志(四一回) 記)		

記念小旅行

立山コース 参加者二七名

室堂を中心に、立山博物館、アルペン村を巡りました。
稀に見る晴天のもと、室堂で集合写真を撮った後、各自のペースで昼食をとり散策しました。

立山博物館では、副館長の川端宏典さん(三六回)にご挨拶をいただきました。



また、行きの車中でそれぞれ自己紹介や大学時代の思い出を語っていただき、帰りにはクイズで盛り上げていただいたりして親交を深めることができました。

天候に恵まれたことで、参加者の皆さんは紅葉の立山を楽しまれたようです。
後日、参加者の皆さんから感想のメールをいただきました。竹田達矢(三八回) 記

当日は案内役兼参加者として立山コースに参加しました。
立山コースでは、室堂の澄んだ空気と雄大な自然に触れ、心が洗われるような時間を過ごしました。

立山博物館では、地形や信仰の歴史について学ぶ貴重な機会があり、特に越嶺会員でもある川端宏典副館長さんとの偶然的な再会は参加者にとって思い出深いものとなりました。

また、参加者同士の交流も盛んで、山好きの方々の知識や久しぶりに再会された方々の会話が旅をさらに彩りました。帰りの車中では感謝の言葉や「またこうした小旅行に参加したい」とのご要望を多くいただき、案内役として非常に嬉しく思いました。

このツアーが立山の自然や歴史の魅力を再発見する場となり、参加者の皆さんにとって新たな良い思い出となったことを心より願っています。

中田雛子(六八回) 記

立山コース

十二回 柳澤一朗
一四回 杉浦吉治、渡辺慶孝

十六回	瀬筒澄博	
十八回	福田哲郎	
二二回	竹澤喜孝	
二三回	堀 雄一	ほか一名
二四回	松尾博文	
	池原孝一	ほか二名
	藤田龍造	
三四回	古村 斉	
三八回	竹田達矢	ほか三名
四七回	大嶋敬右	ほか二名
四九回	沖よし子、林 友美	
六八回	林 和花	
六九回	中田雛子	
	末石航也	

岩瀬コース 参加者十三名

当日は天気にも恵まれ、以下のコースを巡りました。

- 一、富山大学五福構内見学
- 二、呉羽山フットパス連絡橋
- 三、富山県美術館

(昼食：Bibibi & JURUJI)
四、岩瀬散策

(富山港展望台・馬場家見学)
大学見学ではそれぞれが学生時代を語りながら、その時代の様子を共有できました。
「高岡高商門柱」や展示中のヘルン文庫の一部を巡ることで、大学の歴史の深さや価値を学びました。



また馬場家見学では、馬場はる刀自の孫・是久（のりひさ）さん（九三歳）に屋敷内を案内いただく機会を得ました。



ことは、大変感慨深く、また是久さんの背筋が伸び活舌良く説明をされるお元氣な様子に感激を致しました。

ツアーでは参加者それぞれが思い出話や近況を語らいながら、新たな良い思い出を作ることができたと感じております。

参加者、また当日お世話になった方々に感謝を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

十一回 松野健作
十六回 堀道彦
十八回 遠藤敏之
二一回 釜谷春雄、米原俊孝
二五回 飯塚 修、村山 修
四〇回 赤川浩一

四二回 東田勇秀
五五回 伊東ひとみ
五九回 園部佑樹
六八回 青木佑司
短大
一〇回 押田征夫

（園部佑樹（五九回）記）

丹羽ゼミ謝恩会開催

二〇二四年十月十三日（日）富山電気ビルレストランにて、恩師・丹羽昇先生にご臨席いただき開催しました。

丹羽ゼミ第一期生の卒業から数えて四十八年が経過するとともに、富山大学経済学部（旧高岡高商）創立一〇〇周年を迎えることから、経済学部、越嶺会による「記念大会」終了後に開催する運びとなりました。恩師・丹羽昇先生を囲み全国から二十七名が集い旧交を温めました。

まずは、恩師・丹羽昇先生のご挨拶を賜ったのち、村山先輩（ゼミ一期、二五回卒）に



乾杯発声をお願いし、酒を酌み交わしつつ楽しい時間となりました。越嶺会会長伍嶋様（ゼミ第六期、三〇回卒）からは、富山大学経済学部の近況報告もあり母校の益々の発展を確信した次第です。

最後に丹羽先生から、我々参加者全員に温かいお言葉を賜り、あらためて素晴らしい

先生に出会えたことの喜びをかみしめた次第です。
中締めは佐伯先輩（ゼミ三期、二七回）にご挨拶いただき無事お開きとなりました。
出席者

（ゼミOB三五〇名、

一九七七〜二〇一三年）

二五回 村山 修

二七回 佐伯範夫、濱井博文

二八回 笹木 清

二九回 鶴瀬初弘、宮村 樹

三〇回 岡本一憲、小林 将

伍嶋二美男、宮野保

寺西裕行、山田吉晴

石野雅彦、遠藤 彰

柿本浩和、高畑清志

中村哲広、横尾 進

三二回 降旗浩一

三四回 二口良伸

三五回 七澤 勝

三六回 宝島 誠

四〇回 松本 智

五二回 高松 誠、宮田幸生

（寺西 記）

吉原ゼミOB生

祝賀会壇上で記念写真

恩師吉原先生はご出席にならなかったが、祝賀会に参加したゼミOBで記念撮影し

た。残念ながら、式典だけで帰った方は写っていない。



第七回目の開催！

昭和四五年入学同期生集う

Ⅱ富山大学経済学部

創立一〇〇周年

記念式典に合わせてⅡ

令和六年十月十二日、「オ

ークスカナルパークホテル富山」で開催しました。今回も鳥居由美子氏を中心に富山幹事団にまとめていただいた。今回の開催は卒業五〇年という半世紀にわたる絆の証しです。同期生は古希超えの七二歳から七四歳が中心の年齢層です。今回の同期会開催に合わせて立ち上げたグループLINEメールも功を奏し、その機運が高まった同期会には三七名（夫婦参加二組）が集いました。

その同期会は、くじ引きで榎春夫氏が「人生一〇〇歳！我々まだまだ元気に頑張ろう！」と高らかに開会を宣言してスタートしました。

会場の緊張感も和らいだころに、榎春夫氏からご自分が経営されている（取締役会長CEO）岩塚製菓の新潟名菓黒豆せんべいなどを「今回の参加者全員に後日ご自宅に贈呈します！」とのサプライズがあり、熱気に包まれていた会場が更にヒートアップし、割れんばかり拍手喝采の歓喜の渦となりました。

梅本清一氏の司会で各自の思いを込めた近況報告も一巡

したところ、名残惜しいながら中締めとなりました。地元南砺市の武部巧氏がくじ引きで中メ挨拶をしました。が、武部氏はさらに同期の中で最高額の寄付をした穴田氏を指名しました。穴田氏は、大学紛争中も勉強して公認会計士となり活躍していること



を語ってくれました。

南穀之夫妻（神奈川県在住）の呼びかけで同ホテルの「カフェエヴー」で二次会が催され、同期会の余韻に浸りました。その二次会費の一部は「越嶺会」に寄付しました。

今回の同期会は、喜寿に向けての「第八回目の同期会」となります。それに期待しつつ、同期生皆さんのご健勝を祈念しております。ここに長きにわたり我が同期会を引っ張ってこられた鳥居由美子氏に此の紙上を借りて感謝申し上げます。

翌日の富山大学経済学部創立一〇〇周年記念式典には「越嶺会」の関西支部長の三宅博氏や東海支部長の中村昌弘氏をはじめとする十名以上の同期生が参加しました。

今回の同期会を契機に開設されたグループLINEメールは、参加状況や各自の近況等を確認し合いました。そのグループLINEメッセージから四字熟語で今回の同期会の報告を締めたいとおもいます。「多逢聖因」「縁尋機妙」後日、新潟の岩塚製菓の榎

夫氏からサプライズのお品「岩塚製菓の名菓袋」が詰まった大きなダンボール箱が出席した全員の自宅に贈られてきました。これには全員から一斉にお礼のグループLINEメールが飛び交いました。榎春夫氏には改めてお礼申し上げます。

富山幹事団

梅本 清一、大崎 隆	榎 達郎	山崎 達郎	中島 澄雄、安田 隆	千葉 茂幸、鳥居由美子	杉森 聡、武部 巧	久々湊純二、晒谷 和子	帯原 隆、窪田 建司	穴田 茂、飯田 修平	鶴飼 稔、梅田 利勝	加藤健太郎、黒川 清孝	高橋 珠江、竹澤 喜孝	立松 信孝、中田 俊充	中村 昌弘、長谷川 修	林 文夫、日比野 正則	日比野和子、北国 雄治	榎 春夫、松村 毅之	水野 博、南 毅之	南 順子、三宅 博	宮下 隆、森田 守保
------------	------	-------	------------	-------------	-----------	-------------	------------	------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-----------	-----------	------------

(竹澤 記)

学部三一回同期会

十月十三日（日）、経済学部創立一〇〇周年記念大会に合わせ、ホテルグランテラス富山にて開催いたしました。遠くは北海道、神奈川県、愛知県、静岡県からも駆けつけていただき、計一五名の参加となりました。

これまで八〇周年、九〇周年と周年大会ごとに開催しており、久しぶりの再会（まれに初対面）となり、髪型や体型の変化で「誰だったわけ？」の方も。それでも、近況報告

や学生時代の思い出に始まり、第二の人生、親の介護、政治経済の動向、人生論等、いろいろな話題に花が咲き、アルコールの力も借りて大いに盛り上がりました。

閉会の辞では一〇年後の再会を誓い、一本締めでお開きとなりましたが、話し足りないと参加者はそのまま二次会へと繰り出すことに。大学で過ごした青春時代がよみがえったかのような楽しいひとときを過ごしました。

一〇〇周年大会には、ご友人にもお声掛けいただき、さらに多くの皆さんと再会できるといいなと思っております。ご参加をお待ちしております。

出席者（五十音順）

石黒希与志
石野（青木）美津明
小林 一志、近藤 秀樹
里見浩次郎、杉岡 稔
高山 一登、丹保 和広
寺田 宏明、丹羽 祐司
舟崎 友晶、細川 勉
本江 浩一、俣本 浩之
松田 圭司
(幹事 石黒希与志 記)



御礼 (寄附者ご芳名録)

母校創立100周年記念事業の寄附をお願いしましたところ、多くの方々からご送金をいただきました。ご理解とご協力に対し心から感謝申し上げます。

記念大会を滞りなくお開きとすることができました。実行委員会としましては大きなヤマを越えた思いです。いま一度、会報に振込用紙を同封いたしますので、事情があってまだ送金いただいていない方など、この機会に募金いただければ有り難く存じます。

2025 年 2 月 5 日現在 寄附 1095件 3531万0012円也
法人寄附 17社 428万円也

										高商
										九回
										九嶺會
										一
										十七萬四四七
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一
										一

十一回

松田	堀北	藤田	広瀬	橋本	塚高	杉澤	島田	佐野	佐藤	榊原	黒谷	故井上	稲田	伊藤	石出	五十里	秋江	横野	水野	故舟田	中山	富田	富崎	杉本	杉政	新庄	篠田	佐橋	國田	蚊野	金田	柿田	太田	上田	植田	市田
邦雄	正宏	長紘	功悦	勉雄	光文	邦博	吉郎	誠一郎	志典	悦夫	義雄	喜文	豊彦	壽彦	宗秀	瑞一	重彦	英毅	恒芳	賢治	邦雄	和男	雄三	靖雄	文秀	勉守	功郎	克清	元彦	龍也	忠男	幸雄	耕一			
二万	一万	非表示	三万	二万五千	非表示	五万	二万	一万	二万	一万	非表示	三万	二万	非表示	非表示	非表示	五千	一万	一万	一万	一万	一万五千	一万	一万	一万五千	一万	一万五千	一万	一万	一万	一万	二万	非表示	一万	一万	一万

十三回

清水	佐藤	佐々木	櫻田	小林	小路	熊本	北村	故金山	金谷	五十嵐	天谷	山崎	柳原	柳澤	村上	藤田	野村	七森	長井	永井	瀧脇	高松	素野	須沼	白江	小橋	北野	河原	上野	飯田	荒川	吉田	横山	森川	村崎	松原	松野																
汎	盤	一	謙	進	志	久	博	四	哲	夫	滿	一	昭	信	浩	幸	紀	一	修	一	厚	壽	政	弘	正	喜	一	通	康	昭	正義	博	吉	明	昭	一	啓	和	義	一	捷	美	政	進	裕	夫	君	逸	昭	男	茂	健	作
非表示	一萬	五千	五千	一萬	一萬	非表示	一萬	五千	一萬	三萬	一萬	一萬	二萬	二萬	一萬	一萬	一萬	一萬	二萬	一萬	非表示	一萬	二萬	一萬	一萬	一萬	非表示	五千	非表示	二萬五千	一萬	一萬	三萬	非表示	二萬	一萬	五千	一萬															

十四回

出口	杉山	杉田	杉浦	下平	品田	小林	黒田	熊谷	片岡	梯岡	岡田	岡田	太田	大澤	学部	脇田	若林	吉田	吉居	横井	行本	山本	宮森	故宮本	松本	古山	広上	日野	原野	幅崎	博多	西田	西尾	中村	富田	常木	谷垣
明一	征進	征司	邦治	悦弘	和夫	克己	隆夫	英夫	武良	茂毅	一毅	周毅	一毅	四回	達三	正和	謙治	義則	達男	修三	紀好	孝浩	英夫	巖夫	忠治	正務	義雄	達弘	欣一	稔夫	勇也	喜博					
一万	非表示	一万	二万	一万	一万	一万	非表示	二万	一万	五万	二万	二万	二万	一万六千	五三〇	一万	一万	一万	一万	二万	非表示	二万	非表示	二万	一万	一万	一万	一万	一万	一〇万	五千	一万	四万	一万	非表示		

十五回

堀谷	林吉	萩澤	中澤	徳田	出嶋	鈴木	清水	重久	小杉	黒崎	川田	亀谷	入江	東井	渡邊	渡辺	四津	矢野	森田	宮坂	南野	水野	松井	細木	藤岡	福田	針原	中山	中野	中土	中谷	中川	内藤	徳永	寺崎
慎一郎	茂文	雅信	重雄	邦毅	紀一郎	康夫	忠勝	修造	正義	晴光	昭雄	弘学	鐵夫	松男	慶孝	勝海	井宏	八郎	力一	穎章	俊雄	三郎	文夫	正紀	隆一	武四郎	弥夫	詔盛	弘八	正寛	克昭	康彦			
一万	非表示	一万	三万九千	一万	二万	三万	一万	非表示	五千	一万	一万	二万	二万	二万	三万	一万	非表示	一万	一万	一万	一万	二万	二万	二万	一万	一万	二万	一万	一万	一万	三万	一万	一万	一万	

十七回

本多	松井	松田	三浦	森川	安江	吉田	浅井	阿原	伊藤	大野	久郷	小泉	小西	佐藤	守護	瀬筒	田上	太茂	渡久山	早川	針山	堀	蜜澤	蓑	若山	若山	青木	池田	磯井	上埜	大坪	奥野	兼松	川嶋	黒田	郡	具座谷		
正文	信夫	忠弘	勝彦	秀彦	榮弘	育弘	泰實	則實	隆行	孝二	公治	澄博	一夫	楯洋	正敏	健二	道彦	宥二	國夫	昌毅	修	幹彦	四郎	進雄	雅雄	喜雄	登雄	隆志	宣夫	霽	孝一								
一万	二万	一万六千	一万	一万	二万	二万	二万	二万	非表示	二万	二万	二万	二万	一〇万	一万	非表示	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	五千	非表示	三万	一〇万	一万	二万	非表示	非表示	一万	一万	二万	一万

十六回

[illegible]

十八回

谷内	宮地	宮崎	水本	水野	松浦	盆下	細萱	古田	二口	福田	日出	般若	浜松	浜田	羽廣	長谷川	野村	野田	中岡	島本	富田	高原	高島	島田	佐々木	故小栗	大前	太田	遠藤	稲村	松枝	西坂	殿中	田中	高田	篠田	佐野	
雅彦	秀明	保彦	隆範	晃	清一郎	登美雄	美嗣	俊吉	孝志	哲郎	恒夫	義一	政俊	等	嘉一	健郎	邦雄	賢次郎	哲男	昌弘	大三郎	徹	省一	重夫	俊夫	清光	隆一	重和	敏之	敏夫	一博	緑郎	誠一郎	和敏	政彦	幹夫	政治	憲正
二万	非表示	一万	一万	一万	一万	一万	一万	一万	一万	二万	非表示	一万	一万	一万	非表示	七万	一万	三万	非表示	一万	一万	一万	一万	一万	非表示	二万	一万	非表示	五万	二万	一万	一万	一万	五千	三万	一万	非表示	

二十回

柴 七間	倉 坪	加 藤	小 野	匿 名	小 河	大 橋	匿 名	遠 藤	浦 田	上 田	衣 斐	安 達	淺 生	匿 名	山 下	緑 田	松 田	福 田	伴 能	西 堀	寺 崎	寺 越	津 田	田 畑	田 辺	高 野	高 田	祖 父	島 津	齊 藤	後 藤	金 森	奥 森	今 井	青 木	吉 國
慎 一郎	政 範	博 祥	崇		俊 紀	正 幸		実	規 央	敏 裕	隆	賢 太 郎	正 明		忠 夫	弘 之	幸 進	茂 夫	誠 一	喜 久 夫	慎 一	久 次	敏 美	知 昭	昇	真 悟	俊 明	一 夫	俊 次	健 次	清 一	修 一	幸 男	睦 治		
非 表示	一 〇 万	一 万	二 万	非 表示	二 万	一 万	非 表示	一 万	二 万	一 万	一 万	五 万	一 万	非 表示	一 万	非 表示	二 万	二 万	二 万	非 表示	二 万	二 万	二 万	二 万	一 万	二 万	一 万	二 万	一 万	二 万	一 万	非 表示	三 万	一 万	三 万	

十九回

柴 七間	倉 坪	加 藤	小 野	匿 名	小 河	大 橋	匿 名	遠 藤	浦 田	上 田	衣 斐	安 達	淺 生	匿 名	山 下	緑 田	松 田	福 田	伴 能	西 堀	寺 崎	寺 越	津 田	田 畑	田 辺	高 野	高 田	祖 父	島 津	齊 藤	後 藤	金 森	奥 森	今 井	青 木	吉 國
慎 一郎	政 範	博 祥	崇		俊 紀	正 幸		実	規 央	敏 裕	隆	賢 太 郎	正 明		忠 夫	弘 之	幸 進	茂 夫	誠 一	喜 久 夫	慎 一	久 次	敏 美	知 昭	昇	真 悟	俊 明	一 夫	俊 次	健 次	清 一	修 一	幸 男	睦 治		
非 表示	一 〇 万	一 万	二 万	非 表示	二 万	一 万	非 表示	一 万	二 万	一 万	一 万	五 万	一 万	非 表示	一 万	非 表示	二 万	二 万	二 万	非 表示	二 万	二 万	二 万	二 万	一 万	二 万	一 万	二 万	一 万	二 万	一 万	非 表示	三 万	一 万	三 万	

- 一
- 二
- 三
- 四
- 五

梅本	石田	浅野	昭和	米原	山本	村上	匿	林	橋本	苗加	寺田	谷	高木	澤合	釜谷	角谷	小竹	奥村	浦本	石橋	渡辺	吉谷	山本	森田	堀下	堀尾	舟木	樋口	寺林	辻	長徳	関井	
清一	聡	好生	五	俊孝	則男	信男	良平	名一	良平	洋二	正信	和夫	正二	文雄	春雄	憲明	茂樹	正明	寛	高明	吉明	隆義	俊博	隆実	幸雄	克美	英雄	敏敏	外次	哲仁			
三万	非表示	一〇〇万	非表示	一五万	一万	二万	一万	非表示	二万	一〇〇万	二万	一万	二万	二万	八万	一万	三万	二万	二万	非表示	一万	非表示	一万	一万	一万	非表示	三万	二万	一万	三万	一万	一万	五

二二四

梅本	石田	浅野	昭和	米原	山本	村上	匿	林	橋本	苗加	寺田	谷	高木	澤合	釜谷	角谷	小竹	奥村	浦本	石橋	渡辺	吉谷	山本	森田	堀下	堀尾	舟木	樋口	寺林	辻	長徳	関井	
清一	聡	好生	五	俊孝	則男	信男	良平	名一	良平	洋二	正信	和夫	正二	文雄	春雄	憲明	茂樹	正明	寛	高明	吉明	隆義	俊博	隆夫	隆実	幸雄	克美	英雄	敏敏	外次	哲仁		
三万	非表示	一〇〇万	非表示	一五万	一万	二万	一万	非表示	二万	一〇〇万	二万	一万	二万	二万	八万	一万	三万	二万	二万	非表示	一万	非表示	一万	一万	一万	非表示	三万	二万	一万	三万	一万	一万	五

二〇一五〇一二二表一〇二二三一二三一二二二三一二一一二二一一一五二一二二
万万万万万万示万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万

二四回

一〇二一一二一一〇非表五二一一非表二二一非表一五二二一一二二二一非表一三三一一一一二二二非表
万万万万万万示千万万示万万示万万示万万示万万示万万示万万示万万示万万示万万示

二六回

[illegible]

二八回

非表示	一〇万	一一万	一一万	非表示	二五万	一一万	一一万	一二万	一二万	一二万	非表示	二一万	一一万	一一万	三二万	二二万	二二万	二二万	非表示	非表示	非表示	非表示
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

二九回

堀川	細川	古川	福井	広瀬	平野	鶴瀬	鈴木	黒河	匿名	梶井	荻田	伊豆	東村	吉田	吉本	匿名	山上	森川	前川	古岡	春成	原馬	林田	濱田	辻田	作道	高月	曾崎	杉野	嶋崎	佐竹	佐伯	桐山	北井	河部	乙部
孝雄	俊治	均樹	直樹	達也	恵次	初弘	政司	勉	名昇	勤	一美	優治	恭宣	正克	英博	名江	嘉貴	秀博	克弘	雅肇	宏之	慎司	博一	年男	正勝	眞修	樹夫	原孝	武義	貢里	万健	一	俊明	重夫	昭広	
五千	一万	一万	三万	三万	二万	三万	一万	一万	非表示	五万	一万	二万	二万	一万	二万	非表示	一万	三万	一万	一万	一万	一万	二万五千	一万	一万	一万	一万	三万	二万	一万	一万	一万	一万	一万	非表示	

三〇回

[illegible]

三十一回

[illegible]

三四回

野崎	中山	土屋	土屋	棚瀬	田中	館田	島田	崎田	小林	木村	尾関	奥井	大塚	渥美	青木	横田	匿名	本國	福田	中山	中本	寺西	田中	田中	曾我	鈴木	佐藤	坂田	工藤	北越	小野	匿名	大河	浦井	油谷	匿名	山本
栄浩	浩司	雅裕	誠	重雄	秀聡	靖士	しのぶ	安宏	敦	温子	佳子	智保	真実	一也	謙治	名俊	直之	洋	史彦	博明	新助	英次	弘	徹	昌弘	浩和	隆人	名正	正明	浩	名康	二					
二万	三万	一万	五万	非表示	四万	一万	非表示	二万	二万	二万	非表示	非表示	二万	二万	非表示	一万	非表示	一万	二万	一万	二万	非表示	非表示	三万五千	二万	一万	二万	一万	二万	四万	一万	非表示	二万	一万	二万	非表示	一万

三五回

非 表 二 万	二 表 三 万	一 表 二 万	三 表 一 万	二 表 二 万	二 表 二 万	一 表 三 千	非 表 三 万	五 表 二 万	二 表 一 万	一 表 一 万	非 表 一 万	非 表 二 万	二 表 二 万	一 表 二 万	非 表 一 万	五 表 一 万	八 表 二 万	二 表 一 万	三 表 八 万	一 表 二 万	二 表 二 万	非 表 二 万
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

三七回

一三五一二
万万万万万

非表
示

三二二三五
万万万万

非表
示

一三一
万万

非表
示

二二二
万万

一〇二
万万

非表
示

二二三
万万

非表
示

一一一
万万

非表
示

二二一
万万

三九回

非表示 三万 一万 三万 三万 四万五千 一万 二万 二万 非表示 一万 一万 非表示 五千 二万 非表示 一万 二万 非表示 一万 三万 非表示 五万 二万 一万 五千 一万 一万 一万 非表示 二万 二万 非表示 二万 非表示

四二回

一〇〇万 一〇万 一〇万 一〇万 一〇万 二万 非表示 非表示 二万 一万 二万 一万 一万 五千 五千 非表示 五千 非表示 非表示 非表示 一万 一万 一万 三万 二万 非表示 三万 非表示 三万 一万 非表示 一万 非表示 二万 二万 非表示

[illegible][illegible]

三〇回	二七回	二三回	十四回	九回	四回	院	二七回	二六回	二五回	二四回	二三回	二二回	二一回	二〇回	十七回	十六回		十五回	十四回	十三回	十二回	十一回															
田形	三浦	森井	大垣	石丸	福井	浅生	宝土	匿嶋	野崎	山崎	野村	福沢	吉田	宮内	村井	吉川	桧折	沢泉	関口	藤崎	志村	大津	浦田	松野	藤井	竹下	吉田	津本	湯浅	中田	嶋田	古田	出村	北林	重松	藤縄	時沢
昌敏	麻子	信次	輝夫	幸博	幸子		彰吾	名雄	清雄	宗良	祐子	俊久	俊一	邦明	美貴子	正恒	卓志	むつみ	正矩	吉夫	幸光	賀保信	竹昭	優	秀三	外史	虎隆	健一	勇	茂晴	暉彦	敏幸	恒好	文治	信博	信行	
一〇万	五千	二万	一万	五千	五千	一万	非表示	一万	一万	一万	一万	一万	五千	五千	五千	一万五千	一万	一万	一万	二万	五千	一万	一万	五千	一万	三万	五千	五千	一万	一万	二万	一万	五千	五千	一万	非表示	一万

学部長 森口 毅彦	一〇万
現教員 柳原佐智子	五万
元教職員 匿 名	非表示
香川 孝三	一万
亀田 速穂	一万
故 武 下崎千代子	二〇万
武 久美子	二〇万
武井 勲	非表示
谷川 裕子	一万
新里 泰孝	一万
増田 信彦	一〇万
故 山口 素光	五万
一、〇九五件	
三五三一万〇〇一二円也	
法人寄附	
三谷産業	一〇〇万
インテック	五〇万
北陸銀行	三〇万
富山第一銀行	三〇万
富山銀行	三〇万
大谷製鉄	三〇万
朝日印刷	三〇万
富士印刷	二〇万
富山テレビ放送	二〇万
北日本新聞	二〇万
日本海ガス	二〇万
塩崎商衡	一〇万
あいの風とやま鉄道	一〇万
北日本放送	一〇万
北陸コンピュータサービス	一〇万
北陸電機製造	一〇万
富山県信用保証協会	三万
一七件	
四二八万円也	

母校だより

経済学部基金へ高額寄付
三谷産業㈱へ感謝状を贈呈



創立一〇〇周年にあたり、経済学部基金に一〇〇万円を寄付された三谷産業に対し、感謝の意を表し、学部長から代表取締役副社長・森浩一さん(三二回・石川支部長)へ感謝状を贈呈した。

教員の異動

定年退職

(二〇二四年三月三十一日付)
松井隆幸教授
日本産業論
一九八八年四月ご着任

龍 世祥教授
環境経済学

二〇〇四年四月ご着任

新任

(二〇二四年十月一日付)



深澤映司

(ふかさわ・えいじ) 助教

担当…財政学、地方財政論
最終学歴…大阪大学大学院

国際公共政策研究科

博士後期課程

前 職

国立国会図書館調

生

年…昭和三十八年十月

出身

地…静岡県(藤枝市)

ひとこと…私は、昭和六十二年

に大学を卒業してから、職を

転々としてきました。これま

でを振り返りますと、国家公

務員の業務に通算で二四年間、

民間シンクタンクの研究員の

業務に一三年間、従事してお

ります。

直近では令和六年三月末ま

で二〇年間にわたり、国立国

会図書館の調査及び立法考査

局で、財政を専門分野とする調査員として、一人一人の国会議員からの調査依頼に基づき、調査レポートの作成やブリーフィング(対面形式での説明)などを行っていました。このような業務に携わる中で特に強く感じたのは、経済政策をめぐる議論を科学的な知見を十分に踏まえた形で行うことがいかに重要であるかです。

政府が取り組む経済政策をめぐっては、近年、EBPM(証拠に基づく政策形成)を重視する方向での気運が高まっています。それと並行して、個々の国会議員にとっても、国会で経済政策に関する議論を行う際に、自らの主張の妥当性を経済学的な観点から裏付けなければならぬ必然性が高まりつつあります。私は、国立国会図書館の調査員として、国会議員によるそうした活動をサポートしてきました。

そして、日々の業務を通じて、国会議員の中には経済学の知見から大きくかけ離れた自己流の考え方に基つき様々な提案をする人が依然少なくないという現状も、目の当たりにしてきました。

これからの日本は、少子高齢化に伴う人口減少に直面する中で、国や地方が抱える巨額の政府債務を償還していかなければなりません。そして、このような難しい課題に対して経済学や財政学の知見に基づき有効な解決策を見出すことができるのかどうかについても、定かではありません。ただ、個人的には、富山大学において、学生に授業を通じて日本の財政が置かれている深刻な状況について関心を持つてもらうとともに、自分自身も財政学分野の研究を進めることができると考えています。

大学というアカデミズムの世界で常勤の教員として仕事をさせていただくのは初めてですが、どうぞよろしく願います。

関西支部総会のお知らせ

二〇二五年九月六日(土)

正午

がんこ梅田本店

例年の六月開催を、九月に変えてみました。

多数のご参加をお待ちしています。

富山大学退職にあたって

松井 隆幸



私は一九八八年、助手として経済学部にて赴任しました。九州出身の私が、雪国の富山で三十年以上にわたって働くとは、当時思ってもみませんでした。

研究面では、近隣の石川県・福井県の繊維企業の非衣料分野への事業展開に関心をもち、企業へのヒアリングを重ねてきました。「繊維といえばアパレル」が一般的なイメージですが、両県の繊維企業は自動車・機械・土木建築・医療など広範な分野に展開しています。その後、研究対象を炭素繊維や不織布を含めた日本の非衣料用繊維全般へと広げてきました。

教育では、専門科目「日本産業論」を担当しました。内容はマクロの産業分析から国

際分業、デジタル化・モジュラー化など工学技術の経済・経営への影響、内外企業のビジネスモデルや失敗事例、さらに北陸の産業・企業も含めて種々雑多、ある意味富山大学経済学部の特色であった経済・経営・法律（知財にも触れました）にまたがる講義でした。ゼミからは三〇〇人余りの卒業生を送り出してきましたが、ゼミ生の選考ではとにかく「好奇心」のある学生を集めました。おかげで、毎年活気のあるゼミができたと思います。

もっとも印象に残っている仕事は、学部就職指導委員長として関わってきた学生の就職支援です。もったいないことに、学生は驚くほど企業を知りません。知っているのは県庁・市役所・銀行くらいで、越嶺会をふくめ多くのOB・OGがいて採用意欲も高い製造業や建設、専門商社、自動車販売、IT（理系のイメージが強い）などは意識の外。そこで業界セミナーや企業説明会など開くのですが、参加者は少数。「学生は（一部意識高い系を除くと）イベント

にこない」ことを痛感しました。

悩む中、とある情報交換会でリッチェル（株）の人事の方と同じテーブルで話した際に出てきた案が、企業の方にグストスピーカーとして授業に来ていただくことです。幸い学生はマジメで授業には出ますし話しは聴きます。試しにリッachelの人事・若手の方について話してもらったところ、反響は予想以上でした。「製造業が文系を採るとは思っていなかった」という感想も多くなりました。その後、日本産業論やゼミで様々な企業の方に話をしてもらい、効果を実感しました。

そのよう折、当時地域連携室の尾山先生が立ち上げていた教養教育の授業に協力を求められ、企業の経営者・人事・若手の方々の協力を得て開講したのが、十社以上の地元企業（と県庁）のグストスピーカーから成る講義「アカデミック・デザイン」です。同授業は二〇二〇～二〇二四年にかけて九学部およそ七〇〇人が受講し、学生が企業・産業を理解することに貢献で

きたと思います。

六〇歳過ぎて病気をしたこともあり、最後の数年はヨレヨレでした。多くの同僚、事務方、学生、越嶺会はじめ卒業生・社会人の方々に支えられてどうにか定年を迎えられました。感謝に堪えません。

経済学部教授

まつい・たかゆき

退職にあたって謝する言葉

龍 世祥



謝とは「職+文」の金文で職を辞する文を読むことを原意とするといわれます。心底に去来している思い出を演習・ゼミ活動を中心に簡略に列挙しておきたいと思います。

富山を初めて知ったのは、一九七九年に入學した東北師範大学数学系（学部）時代でした。数学棟の一階には一九

七八年設立の環境科学研究所の実験室があり、二人の友達がそのスタッフでしたので、本研究所発足の背景とされる公害問題はよく聞かれました。その中で「四大公害」や、神通川の「イタイイタイ病」(中国語で「痛痛病」)の話はよく耳にしました。

東北師範大学大学院経済学修士号を取得した後、一九九〇年九月に金沢大学大学院博士課程進学を旨指して留学にきました。経済原論・産業構造論の藤田曉男教授のゼミ、環境経済学の桂木健次教授の「地域環境論」と宮本憲一教授の「地域政策論」の講義では、公害などの地域環境問題の歴史的展開が論拠となる協働・環境の産業論、環境経済統合勘定論、環境経済政策論を学びました。

これらの教育をうけて、私は同大学院社会科学研究科博士後期課程から「人間・経済・自然」という循環社会の視点から人間の本質を問いつながら環境経済学にアプローチする研究に導かれました。この研究では、イタイイタイ病は、捨象できない環境問題の歴史的な現場となります。

二〇〇四年四月に神通川と婦中町の直近に立地する富山大学に環境経済学を専攻に着任してから、大学院・学部でゼミ生を引率してイタイイタイ病対策協議会清流館と富山県立イタイイタイ病資料館をよく見学しました。

富山の土地を初めて歩いたのは一九九五年九月頃でした。博士論文を提出できた気分転換に立山登山へ挑戦したことでした。残念ながら、長期の運動不足の私は、途中で息が詰まって一歩も登れなくなり恥ずかしく悔しい思いで下山しました。

二〇一五年に「立山環境調査」のOB合同ゼミに参加した際に私の歩調に合わせてもらい初めて登頂できました。

霊峰の頂では、前回の悔しさを吹き飛ばして「一覽衆山小」(一覽すべし衆山の小なるを)の気持ちで眺めることができました。立山連峰から「山林・中間地帯・平地・沿岸・海湾」の富山の地域循環図を思い描いて展望できました。

実際には、循環図をベースにした富山市エコタウン、富

山市広域圏リサイクルセンター、南砺市、複数のリサイクル企業の現地調査を通じて、富山の調和型循環社会構築と環境産業拡大などのフロンティアの描画は、ゼミ生の自主的な企画・実施によって持続的に行われてきました。

その中二〇一五年から二〇一九年にかけて南砺市を拠点にして、三、四年合同ゼミで作成した調査研究報告書は、日本経済ゼミナール協議会北信越ブロックインナー大会で報告したり、経済学部の『卒業論文集』と『ESTUDIO誌』に投稿できました。これらのゼミ活動は、越嶺会から掲載論文の表彰をはじめ多大の支援と協力をいただきました。

富山大学での新しい思い出としては、まず、十二月二四日に経済学部長候補者選挙の



投票箱に記念すべき一票を大変喜んで投じさせていだいたことです。その気持ちは、来年度から経済学部のご発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げていることただ一つです。次に、最後のゼミ生の卒論原稿を楽しく読んでいますが、メディアゼミの時間で一人一人に対してコメントして、論文提出前の最終発表会でゼミの最後のディスカッションを楽しみにしております。

経済学部をゼミ生諸君と一緒に卒業できる三月二五日の学位記授与式での記念撮影は、何よりの思い出となります。その場で自分も含む皆さんに「卒業おめでとう。不変の道を以って万変に応ず。その道は人間と自然を愛していけば永遠に幸福になるのであります」を贈りたいと思います。

二〇二五年四月から、私はすべての肩書きを外して純粹に生身の人間で生活する生活者になります。

冒頭の金文体から変化して篆体などの「謝」は、礼を言う、「あやまる」などの意に用いるというのです。

この意味で、今後、自分が

生活者の立場で御免と感謝という二つの目盛が刻んである物差しで、短文で述べ切れない思い出の詰まった富山大学の五福キャンパスと経済学部棟という生活空間価値を計りますが、その値はますます高くなっていくのでしょうか。

経済学部教授
ロン・シーシャン

支部・各回だより

関東越嶺会総会報告

二〇二四年九月七日(土)正午より東京富山会館(東京都文京区)にて開催されました。前回二〇二三年十月はコロナ後の四年ぶりの開催で、今回はコロナ後二度目のリアル開催となりました。

林明宏代表幹事(学部二八)の司会で、黙祷、来賓紹介、祝電披露があり、飯塚会長が開会挨拶をしました。来賓・会員への出席御礼と、若手会員に魅力ある会運営に努めたい、富山大学経済学部が百周年を迎え、十月の富山で

の式典で会員や関係者の皆さんと大いに祝いたい、と挨拶しました。

来賓の竹野博和越嶺会本部副会長(学部三二)は、いよいよ十月に百周年を迎える、記念式典にぜひ参加願いたい、引き続き参加者募集中である、と挨拶されました。

続いて、活動報告・収支報告・監査報告、二〇二四年度事業計画・収支計画、二〇二四年度役員体制を、林代表幹事、柿本浩和会計(学部三一)、村山修監事(学部二五)が報告提案して承認されました。

来賓挨拶では、岩内秀穂教授より経済学部基金寄付金(海外留学他支援)の紹介がありました。また、現在注目されているデータサイエンスコースを特定の学部にくく大学は数多くあるが、それを全学部に設置しているのは富山大学である、と説明されました。続いて、東京富山人会連合会の東専務理事から、総会開催の祝辞と、連合会の活動の紹介があり富山県の高校生の研修サポートとして都内の大学見学会を開催していると



話された。

今回のアトラクションとして、茉莉花富山県ふるさと大使に「埴生の宿」を熱唱いただきました。大正ロマンに触れたひとときで、参加者はリラックスされたことでしょう。

塚光雄副会長(学部十一)の乾杯発声で懇親会を開宴し、各テーブルに富山の鱒寿司や銘酒(羽根屋・立山ほか)が並び、賑やかな歓談が始まりました。

今回は、平尾外志雄仰岳会関東支部長と中西憲幸富山薬

窓会前首都圏支部長より来賓スピーチを頂戴しました。両学部同窓会とは、異業種交流会である五福会(十一月十三日開催)をはじめ、交流をより深めています。

永井雅律副会長(学部二一)の閉会挨拶では、大正ロマン後の「昭和」は間もなく一〇〇年を迎えるなどの一〇〇に因んだ話題を披露、一本メにて盛会裏にお開きとなりました。

総会後の関東越嶺会の動き
☆十一月十三日(水)東京富山会館で、薬学部、理学部、工学部などの異業種交流会的な「五福会」開催。二〇

名近く集まりました。
☆十一月十六日(土)には東京丸の内ドイツ風のレストランで一四名参加のeワイン会が開催されました。

来賓

岩内 秀徳(経済学部教授)
竹野 博和(越嶺会副会長)
東 豊昭(東京富山人会連合会専務理事)

平尾外志雄(仰岳会関東支部長)
中西 憲幸(前富山薬窓会首都圏支部長)

佐々木弘恵 (北日本新聞)

東京支社長)

本間 大地 (富山新聞・北國新聞)
茉莉花 (富山県観光大使)

会員

学部
一一回 塚 光雄、石出宗秀

一三回 清水 汎

一四回 渡邊慶孝

一八回 福田哲郎、野村邦雄

長谷川健郎

有沢正道

永井雅律、江藤隆典

室伏 渉

二二回 竹澤喜孝

二二回 平方睦男

二五回 村山 修、飯塚 修

二七回 吉川倫子、長岡英晴

二八回 前田昭夫

林 明宏、西垣栄一

森 秀貴

三一回 柿本浩和

短大 相澤 剛

六回 子浦曜子
(林 明宏 記)

二二回 子浦曜子

東海支部総会・懇親会 報告

令和六年九月二一日(土)
正午から名古屋栄の東京第一
ホテル錦にて開催しました。

来賓には富山より森口経済
学部長、竹野越嶺会副会長を
お招きして会員四九名と来賓
二名の総数五一名の総会・懇
親会となりました。

第一部の総会では尾関副支
部長の司会の元 中村支部長
挨拶では今後より多くの参
加者を募って多様性の溢れる
同窓会にしたいとの方向が示
されてのち、会計、会計監査
新役員体制が原案通り承認さ
れました。

また十一月十七日開催予定
の第三回ゴルフコンペの案内
もありました。

今回から富山大学の配偶者
(経済学部に限ら)とご一緒
の場合の特別優遇を試みまし
た。多くの卒業生を増やした
いとの思いですが一組の経済
学部卒のご夫婦が初参加頂き
ました。こんな事もしながら
多くの同窓生が楽しく集えれ
ばと思います。

第二部の懇親会では、服部
幹事の司会の元、最高齢の十
四回杉浦さんの乾杯の挨拶か
ら始まりました。アダム・ス
ミスと誕生日が同じとの自己
紹介で会場は一気にアカデミ
ックな空気に代わりました。

そして、特別講演として岐
阜市内で三十年実績の税理士
平工信雄さん(二七回生)の
「聞いて深まる 相続対策」
のテーマで興味深い話をいた
だきました。

引続いて、川瀬副支部長と



尾関副支部長による「富山と
大学 今昔物語 クイズ編」
と称して富山に関わるクイズ
を団体戦、個人戦で競い合い
ました。テーブル毎に楽しく
相談・会話ができて参加者の
距離が縮む機会となり大いに
盛り上がりました。賞品は白
エビせんべい等の富山名物で
ご家庭への懐かしいお土産と
なったのではないかと思います。

懇談の時間には、サークル
の先輩・後輩が思い出に興じ
ている方もいましたし、名刺
交換にてビジネスの新たな人
間関係を築いている方も多く
見受けられました。

最後に「ふるさと」をテー
ブル毎に肩を組んで合唱して
気持ちの一つにして再会を誓
い、尾関副支部長の挨拶で三
時間の会を閉じました。

今年からQRコードからの
Googleフォームでの総会・
懇親会の申し込みにしました。
これによりデジタル化が進み、
越嶺会ホームページからの申
込も可能となりました。

次回は二〇二五年九月二〇
日(土)を予定しています。
多くの方の参加を期待してい
ます。

承認後の体制

支部長 中村昌弘 (二二回)
副支部長 川瀬基裕 (二七回)

会計 尾関桂子 (三四回)
倉地博之 (四七回)
置田正浩 (三二回)

会計監査 倉地博之 (四七回)
置田正浩 (三二回)

事務局 倉地博之 (四七回)
服部智政 (四五回)

ゴルフ部会長 白石憲生 (三六回)

幹事(無任所) 平松秀康 (三一回)
中島弘人 (三一回)

(新) 加藤隆久 (二九回)
(新) 木村吉誠 (三五回)

顧問 清 信裕 (二三回)
馬場幸博 (二七回)

(新) 細江克秀 (二六回)

出席者 熊谷隆夫、杉浦吉治

十四回 磯井幹彦

十七回 稲村敏夫

十八回 中村昌弘、磯部義金

二二回 立松信孝、林 文夫

二三回 森田守保

二四回 石原昇治、清 信裕

二五回 藤田龍造

二八回 高崎真樹夫
二九回 加藤隆久
三〇回 福井和彦
三一回 岩瀬正昭、平松秀康
三二回 中島弘人
三三回 伊藤 修、置田正浩
三四回 高見 功
三五回 古川 誠
尾関桂子、加藤浩成
田邊孝平、橋本茂雄
木村吉誠
木村美智子
榊原博行、松原 正
白石憲生、中島英登
野田貴文
石田 尚
新川兼史
近藤 秀
服部智政
杉本英雄
倉地博之、近澤 保
吉野雅人
蜂谷将太
(中村 記)

東海支部

第三回、ゴルフコンペ開催

去る二〇二四年十一月十七日(日)に岐阜県多治見市の愛岐カントリークラブにて開催しました。

風のない絶好のゴルフ日和に恵まれ楽しいひと時を過ごしました。

二二回生から六一回生までの幅広い年代のゴルフ好きの同窓が一七名集まりました。

表彰式は白石ゴルフ部会長の参加者への感謝の挨拶から始まり、三回目ともなると顔見知りも多くなり一年間の旧交を温める楽しいパーティとなりました。

昨年に続いて四〇回生の新川兼史さんから勤務先本社がある砺波市の名産チューリップの球根の差し入れがあり、参加者全員の良いお土産となりました。

次回の第四回コンペには友人等への誘いをして参加者を増やそうと皆で申し合わせ散会しました。因みに第一回一五名、第二回一四名、今回は一七名の参加者でした。

優勝は三一回生の中島弘人さん。ベスグロも中島さんの完全優勝。

支部長の中村からは、東海支部の来年度の総会・懇親会は二〇二五年九月二〇日の土曜日開催の案内と知人を誘っての出席を依頼しました。

参加者

二二回

磯部義金、梅田利勝

二八回 小杉健二、中村昌弘

三一回 森田守保

三四回 高崎真樹夫

三五回 小出典一、中島弘人

三六回 橋本茂雄

三七回 杉山富保

三九回 白石憲生、中島英登

四〇回 野田貴文

四七回 石田 尚

六一回 新川兼史

倉地博之

田口寛道

(中村 記)



福井支部総会報告

本年は例年より少し早めの十月五日の開催となりました。参加者は三〇代〜七〇代で、職種も経歴も様々なメンバーが揃いました。加えて、今年は本部から堀田さんに来ていただきました。富山大学経済学部創立一〇〇周年記念大会のご案内のほか当会への激励をいただきました。

本総会では、福井支部長を長年務めてこられた舟木さんのご勇退と、次期支部長に平野恵次さんの就任が発表されました。当会がこうして活動ができていることは、ひとえに舟木会長のご尽力の賜物です。会長が率先して声を上げ活動が続けてきてくれたからこそ、人が集まり今の福井支部があります。これからは平野新会長のもと、これまで以上の盛り上がりとなるよう活動を行っていきます。

総会では参加者の自己紹介から思い出話に花が咲きました。年齢層が様々なので世代間ギャップはいつもとても大きいです。同じ場所にいたのに世代によって見てきた街の



景色が違い、その話で盛り上がるのは越嶺会ならではの面白さでしょう。

事務局で用意する富山大学クイズでさらに盛り上がりです。富山大学の昔の話だけではなく、今の富山大学の情報をクイズ形式で提供してくれます。毎回楽しみながら勉強し、総会後には皆、情報を数段アップデートできています。

今回、富山大学経済学部創立一〇〇周年に合わせ、総会参加者から寄付金を募りました。

た。また、総会に参加できないものの寄付のご意向がある方もいらつしやり、それらを合わせ寄付いたしました。

事務局では、継続的に福井支部の参加者募集活動を行っています。今年もお誘いハガキを見て参加いただいた方がいらつしやいました。ハガキのほか、メールやLINEを駆使しながら繋がり輪の拡大を行っており、その成果は確実に大きくなってきています。

今後若手や女性など参加者の数を増やし、層を厚くしていくため、参加しやすい雰囲気づくりをして、交流が広がっていくよう配慮し、卒業後の絆を強めていくよう努力してまいります。

出席者名

二六回 堀田正之副会長

二〇回 梯左武良

二〇回 舟木幸雄、土田邦昭

二〇回 白崎 章

二九回 平野恵次

三四回 松代憲和

四五回 林 智之

五七回 河上佳史

(河上佳史 記)

昭和五十二年卒業
吉原ゼミナールOB会
四十七年の時を越えて



令和六年十月二十四日(木)
富山市で、一九七七年卒業
(学部二五回) 吉原ゼミOB
会を開催しました。

学生運動が下火となった昭和四八年に入學し、ご縁があった吉原節夫先生のゼミで勉強させていただきました。思い出に残っているのは卒業旅行で北陸福井県(永平寺、東尋坊)を訪れたことです。今年令和六年元日に発生した能登半島地震に衝撃を受け、

石川県、富山県、新潟県に住む学友の安否の確認を行いました。これがきっかけとなり、被災地域、特に石川県・富山県を応援するためにみんなで集まろうということになりました。日程調整を重ねる中、最終的に四名の出席が叶いました。

富山大学正門前での四七年の時を越えた再会が実現しました。風貌は変わっていましたが、面影はかなり残っていました。通りかかった学生さんに写真を撮ってもらい、その後構内を散策しました。経済学部をはじめ、全ての建物が新しくなっていました。学生会館前の池はありません。ただ、奥の武道館が当時を蘇らせてくれて感激しました。下宿はアパートになり、その変貌ぶりには驚きました。

懇親会はJR富山駅ビルの居酒屋。時間がいくらあっても話は尽きません。またの開催を誓って閉会となりました。次回はより多くの仲間の参加を願ってやみません。

吉原節夫先生におかれましては九二歳のご高齢で、お目にかかれませんでした。奥様

によるとお元気とのことでした。

出席者

中田晃夫（富山県射水市）
前田秀夫（富山県氷見市）
宮下一夫（石川県加賀市）
長澤政廣（新潟県上越市）
（幹事 長澤政廣 記）

叙勲おめでとうございます

令和六年十一月三日に発表された秋の叙勲で受章された。

瑞宝小綬章

奥井速雄様(学部二五回)

瑞宝双光章

中山治和様(学部二六回)

文化庁長官表彰

おめでとうございます

山本広志様(短大二〇回)

新川文化ホール初代館長、
県高岡文化ホール館長、
富山県民会館館長を歴任、
二〇一八年から、高岡市
民文化振興事業団事務局
エグゼクティブ・プロデ
ューサー。

小泉八雲蔵書

ヘルン文庫100周年感謝祭

中尾哲雄さん(八回)と

重原佐千子さん(五四回)

が出演

二〇二四年十一月二日(土)
午後三時から富山大学黒田講
堂大ホールで開催された。

斎藤滋学長の開会あいさつ、
人文学部の中島淑子先生の
「富山大学とヘルン文庫」と
題した話があった。

そのあと、富山八雲会会長
の中尾哲雄さんが重原佐千子
さんのインタビュを受取る
形で、「ヘルン文庫と私」と
題して思い出を語った。

ヘルン文庫にまつわるエピソードとして酒井秀紀図書館
長が「花とお墓と蚊」を語り、
図書館職員の皆さんが、蔵書
に触れて、あるいは、来訪者
の足跡、さらにはヘルン文庫
が時代と共に移転してきた話
などが披露された。経済学部
に隣接して図書館があったの
で、図書館が移転して空いた
処に日本海経済研究所事務室
が置かれた経緯がある。
休憩の後、八雲のひ孫・小
泉凡氏の記念講演があった。
怪談朗読として「雪女」を、

重原さんが老人・若者の猟師、
雪女を声色、声調を変えなが
ら一人で演じていると思えな
いほど自然な感じで演じた。



最後に、紙芝居として大ス
クリーンを使って「むじな」、
「のっぺらぼう」の話が語ら
れた。その中で、商人の役で、
中尾さんもセリフをこなした。

この日は雨風の強い悪天候
であったが、多くの人が集ま
り、帰りの車列は長く、正門
を出るまで随分時間を要した。
なお、黒田講堂での催しが終
わった後六時から三回にわた

って、フロアを消灯してヘルン文庫に入るナイトツアーがあり、「雪女」や「むじな」を聴いた後だけに、昼間と違った雰囲気を楽しんだ。

受贈図書御礼と紹介

短大三回・高田政公様から。



「学校をつくった男の物語」

B 6判一九二頁

二〇二四年八月二〇日

桂書房発行

一六五〇円(税込み)

北陸で初となる測量士養成のための、建設大臣指定校を創った高田さんの自叙伝でもあり、その苦難の道のりと波乱の人生が描かれている。

太田久夫様
(元高岡市立図書館長) から



「南弘先生 人と業績」 1冊目の写真頁(右)と3冊目表紙(続々)

「南弘先生

人と業績(続々)」

B 6判二〇三頁

二〇二三年一〇月一〇日

高岡高商生みの親と言われる南弘氏(一八六九・一〇・一〇―一九四六・二・八。元逓信大臣、「厚生省」名付け親と言われている)の人となりを紹介している。一九七九年、一九八〇年続編をそれぞれ発行。続々編は三冊目になる。

同窓会連合会

第十七回ホームカミングデー

十月二七日(日) 午前十時から経済学部三〇一講義室を会場に「アントレプレナーシップ(起業)」を応援しよう」をテーマに開催された。

森口経済学部長が開会挨拶をし、主催者として斎藤滋学長が挨拶された。冒頭、昨年から周年記念が続いていると、経済学部創立一〇〇周年をはじめ各学部の周年行事を紹介された。

本題の「アントレプレナーシップを応援しよう」では、岸本壽生教授が進行役を務め四事例が紹介された。

事例紹介 1

実在の富山の企業をケースに経営、業界・社会を分析し、学生が経営者に新事業を提案した。学んでいる経営学の知識を生かし実社会と良いかわりを持つと積極的に、経営、起業する当事者の立場で可能性、リスクを考えた。

杉山貴哉・経営学科四年
岡部 蓮・経済学科三年

柵 富雄・ジェック経営
コンサルタント

事例紹介 2

高校時に過疎問題を学ぼうと富山大学入学。活動することの大切さを学び、大学生の立場でできる社会貢献を考え二〇二三年十一月からシニアと学生の交流イベントを行う学生団体を立ち上げて活動中。高橋 冴・人文学部三年

事例紹介 3

失敗を恐れるな「NOLIMITS」で突き進む限界を極めつけず可能性を信じ挑戦し続けることが大切。行動すること新たな可能性を発見し自己の可能性を最大限に引き出すことができる。松浦洋一・経営学科三年

理学部卒業後、県内IT企業に就職。キャリアアップを目指し県内外のIT企業に勤務。二〇一五年独立、二〇一七年(株)北陸テクノソリューションズ設立。経営学を学びに経営学科(夜間主)入学、岸本ゼミで自己研鑽中。

事例紹介 4

発足二年目の富大起業部の挑戦 起業部から生まれた学生起業一覧

株式会社トワクル

学生の就活支援、アンケート事業を展開

友達の家とやま

「学生に溜まり場を提供」をモットーに大学徒歩二分の場所で営業中。開設半月で百人以上の実績。

GRAB Used Clothing

オンラインでの古着販売

が主。自分の好きなことを広めるために活動中

学習支援サービス

自主学習時の集中サポートのため隣で勉強を行うサービスを準備中

公式ライン「トミコエ」

富大起業部×富山県立大

「Engin」による大学を越えた公式ラインサービス。県内学生登録二千名を達成。学内でほしいサービスのアンケートを収集。アンケート、広告配信を実施。

平野匠人・経済学部四年

体育会関係

びつくりするほど元気だった「体育会OB会」

令和六年十月二三日(水)、二四日(木)富山市の呉羽ハイツで六年ぶりに体育会OB会を開催しました。第四代体育会委員長の嶋谷さんの発案で第三代委員長の金森さん、竹内さん、第五代委員長の吉國さんと私青木が世話人となりOB約六〇名に声をかけを開始しました。対象者は高齢でもあり、最後の会になるかもと心配しましたが、参加者二十一名はとても元気で杞憂に終わりました。能登半島地震の発生で四月開催を十月に延期しました。現在体育会の再建に尽力されている第二十代委員長の山口さんにも参加してもらい説明を受けました。六時に記念撮影の後、吉國さんの軽妙な司会のもと、会食・懇談・近況報告やカラオケで学生時代を思い出しながら大いに旧交を温め、二時間はあつという間に過ぎました。山口さんの体育会再建の説明では、コロナで入構禁止となり行事もできず気が付くと



団体届も失効して「解散」になっていた。しかし山口さんは丁寧に粘り強く「活動再開に向けての懇談会」を開催するなどし、四人の学生が事務局役員に就任し令和五年七月「課外活動団体」と大学から認定され十二月には「令和五年度総会」を開催されたそうです。いまは十数名で事務局を組織運営し、広く学内に体育会を知らせることが大切と考える

て球技大会を計画しているとのことでした。

山口さんの涙ぐましい活動には頭が下がる思いでした。私たちOB会も山口さんを支えて活動していくことになりました。

懇親会の後幹事部屋で二次会となりました。山口さんらが体育会機関紙「湧嶺」のバックナンバーを持参されたので回覧し、学生献血連盟の活動や五〇数年前の体育会メンバーの忘年会写真が披露されるなど、思い出話の材料には事欠かず昔話や自慢話?に花を咲かせました。

翌日は朝食後、ゴルフ組や散策組に分かれ体育会再建を合言葉に帰途につきました。

参加者

昭四三年卒

竹内 武(剣道)

金森 光治、兼松 稔

川村 裕助(スキー)

岸本 弘(エラグビー)

東 洋幸(エラグビー)

松井 利康(サッカー)

昭四四年卒

奥野 雅雄(ハンドボール)

小泉 芳明(硬庭)

嶋谷潤一郎(一般)
竹内 正良(剣道)
昭四五年卒
遠藤 敏之、針山 健二
(籠球)

盆下登美雄(陸上)
吉國 睦治(サッカー)
昭四六年卒

青木 幸男(バドミントン)
津田 久治(スキー)
昭四七年卒

衣斐 隆(バドミントン)
米原 俊孝(軟庭)
昭四八年卒

江藤 隆典(サッカー)
昭六〇年卒

山口 達弘(教育サイクリング)
(青木幸男 記)

球技大会報告

二〇二四年十一月十六日に第三体育館で、体育会主催の球技大会が開催されました。富山大学体育会が再建されて一年半。本年度の新入生から加入活動を始めてようやく一般会員にスポーツ交流の場を設けることができました。競技種目の選定や賞金の額などについては特に事務局内で検討しました。それは体育

会の存在とその目的を周知し、多くの学生の参加で学生生活を盛り上げることに重きを置いたからです。

午前中にドッチビー、午後にはビーチボールを行いました。ビーチボールには富山県協会や朝日町の協力もあり、公式審判員の派遣を得ることができました。参加チーム数は延べ三七組、一八七人でした。

ドッチビーは学生たちが小中学校でよく経験してきた競技であり、七人が飛び交うデイスクに呼応してめまぐるしく動き回っていました。ビー



チボールは富山県朝日町発祥であり、県外出身学生には初めての体験のようでした。ルールはバレーボールに似ているものの、ボールは柔らかく動きは変則的で、その思わぬ動きに学生たちは戸惑っていました。どちらの競技にも大きな歓声と絶叫が交錯して、体育館は大いに盛り上がりました。

大きな怪我や事故もなく爽やかな秋の日を楽しく過ごせました。企画・運営はすべて体育会事務局が行い、ほぼスムーズに日程を終えることができました。反省点は、ドッチビーでは競技上の判定が困難だったこと、女子の参加が少なかったこと、杉谷・高岡キャンパスへの広報ができなかったことなどがあります。

次回は、新しい仲間づくりや他のサークルとの交流に活用できるように、新年度間もない五月頃開催を目指して準備調整をしていくつもりです。今回の大会に協力いただいたすべての皆さんに感謝するとともに、今後とも体育会活動への支援をいただけるようお願いしたいと思います。

体育会総会 (令和六年度)

十二月十八日(水)に経済学部一〇九室で開催されました。

加盟一四クラブのうち一二クラブの代表者が出席し、令和六年度の活動報告・決算報告と令和七年度の活動計画・予算案が承認されました。

役員改選では、第六〇期委員長に柔道部の窪田圭太さんが再任され、副委員長にアイスホッケー部の吉田麻美さんと空手道部の市川巧真さんが選ばれました。

委員会を兼ねたこの総会では、事務局の強化、クラブ支援の強化、球技大会の充実の事務局提案が審議されました。事務局強化では事務局が継続して活動できるように、事務局員を各クラブの一、二年生から選出してもらうと同時に基本的に三年生までは在籍することが確認されました。

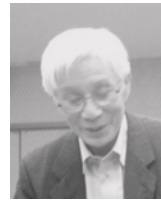
事務局員の活動手当についても審議されました。

クラブ支援の強化では、これまでの支援の他に非競技系クラブへの支援として遠征費の規定を設けることと、加盟

(32頁4段目に続きます)

会員の訃報

山村の現場を歩いた学者 山口素光先生を悼む



梅本 清一

昨年師走に入り、山口先生の訃報が自宅に届きました。島根県出雲市出身、京都大学で社会学を修め、石瀬秀治教授の後任として昭和四一年赴任されました。時あたかも大学紛争が激しくなる中、デモや火炎瓶が飛び交う時代でした。とりわけ経済学部は深刻で、「無期限スト」の看板がいつも立つキャンパス風景でした。

私が山口ゼミに入る頃、日本は経済成長の中、地方の過疎化が進む時代でもありました。この頃、山口先生は講師から助教授に昇任されました。先生が五箇山の利賀村を中心に、県内の山村・農村を歩き、「離村の背景を探る意識調査」を始められた時期と重な

るのではと思います。

先生の専門は社会学の中でも宗教社会学だと聞きました。私は専門課程でゼミを選ぶ際、就職を見据え、近代経済学や経営学、会計学などが浮かびました。しかし、大学時代でしか学べない社会科学、学問は？と考えた時、広く「人間と社会」がテーマの社会学だと、山口ゼミに入りました。

先生は当時、富山県立総合衛生学院（現・富山県立大看護学部）の非常勤講師も務め、利賀村出身の学生から「五箇山の利賀村は良いところ。一度遊びに来てよ」と誘われ、山村に興味を抱いたそうです。以来、利賀の自然や村民の優しさに感動し、過疎の現場と離村先を一人ひとり追跡調査し、離村の背景を探る道に転向されました。

山口ゼミ生は一度や二度、追跡調査に関わりました。私も二回参加しました。利賀村から一人一人の離村先を追跡し、下流域の八尾町や婦中町を歩きました。多くの離村先は都会ではないのです。利賀村の離村形態は働き場を求めて次男や三男が出ていくのではなく、多くは一家挙げての

離村でした。理由は子どもが高校に通えないことでした。子ども一人を下流の町で下宿させることをせず、世帯ごと引越したのです。

追跡調査はしんどかったけど、楽しい思い出が蘇ります。移住先は街なかでなく、農村地帯でした。しかも、同じ集落への「集団移住」ではなく、異なる集落に点在していました。しかし、住所は別でも強い絆で結ばれていました。調査員のゼミ生は目的の移住者を地図で確認し、また隣村まで歩く。結構しんどい作業でした。離村者の人生模様を聞くうち夜の帳が下りているのに気付かず、最終バスに遅れそうになることもありました。

先生はゼミ生が卒業しても、時々各自の就職先を訪ねて来られました。都合がつけば、雑談し、また次の卒業生の職場を回っておられたのです。昭和五六年、先生は岡山大学に転勤後も利賀村調査は続けておられ、ゼミ生OBの職場を訪ねられました。卒業年次を超えて、お互い声をかけ、飲み交わすこともありました。その時、必ず利賀村の離村調

査、歩き通した日々を語り合うのが楽しみでした。私達の同年次入学生は、入学式も卒業式もありませんでした。

大学紛争が続いていたためです。ゼミ生十一名の卒業証書授与は先生の研究室でした。その後、駅北の先生の官舎へ行き、奥様の手作り料理を頂き、未来を語り合いました。

後年小生は北日本新聞社に勤めましたが、思えばどんな仕事でも「現場を歩く」ことの大切さは大学で学んだ、と確信しています。山口先生に感謝、心よりご冥福をお祈りします。

学部二二回

うめもと せいいち



会員の訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

卒業回	お名前	ご命日	卒業回	お名前	ご命日
元教員	山口 素光	令 6 (2024).11.14	学部18回	井川 俊男	令 5 (2023). 2 .18
元教員	海道 勝稔	令 5 (2023). 2 .12		小栗 清光	令 6 (2024).12. 3
高商19回	朴木 正	令 6 (2024). 6 .	学部19回	田中 一郎	令 6 (2024).11.20
学部 1 回	中川 辰彦	令元(2019). 6 .11	学部20回	堀 安秋	令 5 (2023). 8 .31
学部 2 回	花房 秀雄	令 5 (2023). 8 .28	学部23回	中川 昭信	令 3 (2021). 4 .12
学部 5 回	石渕 豊	令 6 (2024).10.18	学部26回	小杉 真也	令 4 (2022). 8 . 2
学部 6 回	久保 進	令 3 (2021). 5 .21	学部43回	仲井 俊文	令 7 (2025). 1 .11
学部 7 回	吉山 忠夫	平31(2019). 4 .10	学部44回	塚田 明稔	令 6 (2024). 7 .12
学部 8 回	上原信三郎	令 6 (2024).10.15	学部46回	金沢 正	令 6 (2024). 8 .20
学部10回	鶴谷 武信	令 6 (2024). 2 .19	学部54回	岡田(川腰)麻衣子	令 6 (2024). 7 .15
学部11回	中西 鉄三	令 5 (2023).10.13	短大 1 回	石川 進	令 5 (2023). 5 . 6
	吉富 啓祐	令 6 (2024). 6 . 1	短大 3 回	菊 昌隆	平29(2017). 5 .28
学部12回	角島 広治	平31(2019). 3 . 5	短大 5 回	澤飯 佐平	平30(2018). 2 . 4
	笹山 進	令 2 (2020).10. 4	短大 6 回	横山 吉雄	平29(2017).10. 2
学部13回	金山 満	令 6 (2024). 6 .30	短大 9 回	石倉修一郎	令 6 (2024). 3 .19
学部15回	宮川 一誠	令 6 (2024).春	短大10回	丸山 高治	令 6 (2024). 7 .20
学部17回	飴谷 政男	令 6 (2024).9.11	短大11回	石川 威宏	令 6 (2024). 4 . 4

住所変更通知欄 (越嶺会事務局 FAX:076-445-6419)

住所や姓名等に変更があった際はFAX等でお知らせ下さい。

お名前 _____ 昭、平、令 _____ 年卒 (第 _____ 回)

新住所 _____

新電話 _____

(差し支えなければメールアドレス _____)

（30 頁 4 段目からの
続きです）

クラブを増やすべく
取り組みことが承認
されました。

球技大会の充実に
関しては、十一月に
実施したビーチボー
ル大会を、新しい仲
間との交流の機会と
して五月に実施す
る方向で確認されま
した。

そして、活動拠点
として体育会室を学
生会館内に設けるた
め、学生支援課や関
係団体と交渉を始め
ることにして意見
交換をしました。

令和七年度は、六
年度の活動をもとに
さらに組織を整えて
一般学生からの認知
度を上げていくこと
が課題です。また、
五福キャンパスだけ
でなく杉谷・高岡キ
ャンパスにも活動の
輪を広げ、学外の他
団体とも交流してい
きたいと考えていま
す。